

令和5年度「ダンボールコンポスト・メイト」懇話会

1. 日時 令和5年11月14日(火) 14:00～15:30
2. 場所 函館市中央図書館 2階大研修室
3. 出席者
 - (1) ダンボールコンポスト・メイト 17名
 - (2) 講師兼アドバイザー
はこだて魚の会 柿崎 陽子
 - (3) 函館市環境部環境推進課 4名
4. 要旨
 - (1) 函館市からの説明(配布資料に沿って説明)
 - ・生ごみの減量対策
 - ・令和5年度 ダンボールコンポスト・メイトの生ごみ投入量(10月現在)
 - (2) ダンボールコンポスト・メイトさんからの感想
 - ・生ごみの投入量について
1日100gから300gで、1ヵ月で2.6kg投入した。
生ごみの投入量が少ないので7ヵ月で45kg投入し、10月で終了した。
 - ・良かったこと
生ごみの量が減った。
作った堆肥を使用したら立派なサツマイモができた。
生ごみをごみにしないように気を付けるようになった。
 - ・困ったこと
温度が上がらなかった。
ダンボール箱が壊れた。
虫が発生した。
かき混ぜるのが大変だった。
分解されず残った。
 - ・堆肥づくりのこつ
毎日かき混ぜる。
生ごみをハサミで切り細かくして入れる。
貝類や塩分の多いものは入れない。
水分調整に気を付ける。
 - ・その他
堆肥づくりを目的としているのではなく、ごみ減量を目的として行っている。
コンポストに入れた種が発芽してそれを植えたら育った。
ダンボール箱の台にキャスター付きのものを使用したら移動に便利だった。
ふたを作るのが大変だったので、少し大きめのダンボールをかぶせた。
毎日続けることが思ったより大変だった。
記録をつけるのが面倒だった。
堆肥の交換会があればよいと思った。
水分量は堆肥を握ったとき手に水分を感じるくらいでよいのか。
コーヒーかす入れてもよいのか。
卵の殻を入れたら分解されずに残っているが大丈夫か。
堆肥はそのまま使ってもよいのか。

(3) 柿崎講師からのアドバイス

- 投入量は1日500gから600gが目安で3カ月で終了となっていますが、投入する量が少なければ3カ月以上続けてください。
ダンボールコンポストには20ℓの基材で生ごみは3.5kgから4.5kgまで入れられます。生ごみは多く入れても構わないが翌日は投入量を少しにするなどして調整してください。
- 水分量は多すぎると虫の発生や臭いの原因になります。堆肥を握ったとき手に水分を感じるくらいが良いです。
- コーヒーかすは防虫や消臭の効果があるので入れても大丈夫です。
玉ねぎの皮や卵の殻は分解しにくいので小さく切ったり、砕いて入れてください。
入れないほうが良いものは塩分の強いものや大きい種などです。
食べられるものはできるだけ食べていただき、食べられないものだけダンボールコンポストに入れてください。
- 温度については、15℃以上あるとゆっくりと生ごみが分解していきますので良くかき混ぜて続けてください。
- 堆肥は熟成後土と混ぜて使用してください。使用するときは種や苗に直接堆肥に触れないようにしてください
- 堆肥づくりは無理をせず、楽しみながら行って欲しいです。
長く堆肥づくりをしているとコツがわかってきますので、継続してやっていただきたいと思います。

5. 懇話会の様子

懇話会の開催の挨拶後会が進められました。



ダンボールコンポスト・メイトさんからの堆肥づくりの経験談が話し合わせ、困ったこと等のアドバイスを柿崎講師からいただきました。



柿崎講師の自宅で作成中の堆肥を持参していただき、メイトさんに見ていただきました。

